

葬儀・お墓にかかるお金はどう準備する？

ファイナンシャル・プランナー 有田 美津子

今回は、おひとりさまはもちろん、子ども世代に負担をかけたくない方たちのために、葬儀・お墓にかかるお金をどう準備するかを考えてみたいと思います。

先月までのコラムで、新しく墓地を購入して墓石を建立する場合、200万円から300万円の費用がかかることをお伝えしました。しかし、エンディングに向けて準備しなくてはならないのは、お墓だけではなくありません。その前に、必ず葬儀にかかるお金が必要です。2003年の日本消費者協会の調査では、葬儀社に支払う費用の全国平均は23万6000円！お坊さんや会葬に来てくださる方たちへの接待、飲食費を含んだ金額とはいえ、たった2日か3日の間にこんなに大きなお金がかかるのです。

日常生活の中で、こんな大金を使う時は長い時間をかけて考えるでしょうが、葬儀の場合、ただでさえ動転した精神状態の中で、知識も何もなく葬儀社の言うままにことが進んでしまうこともしばしばあるようです。自分のエンディングをどう迎えたいか、ということを含めて、葬儀・お墓のお金の準備を考えておくのはとても大切なことです。以下、具体的なお金の準備の方法をいくつか考えてみましょう。

1. コツコツ積立をする

積立たてたお金は万能のお金！葬儀・お墓だけではなく病気や介護、すべての不安に備えることができます。でも、残念ながらたくさん貯まるまでには時間がかかります。

2. 生命保険（終身保険）

お葬式のお金は、万が一の時は必ずもらえる終身保険で準備する、という方も多いようです。ただ、中高齢になってから加入する場合、保険料が高くなる、健康状態によっては加入できない場合がある、などの制約も出てきます。

3. 冠婚葬祭互助会

会員になり、毎月1000円から5000円程度の掛け金を60回から100回程度納めると、葬儀の時、提携の斎場や葬儀社を会員価格で利用できるものです。ただし、掛け金に利息は付きません。積み立てた分は精算時に差し引いてくれます。また、互助会によって使える斎場が決まっているので、自分が住んでいる地域と斎場の場所をよく確認してから加入する必要があるでしょう。

4. 葬祭費用を準備できる少額短期保険

葬祭費用保険、というと、生命保険や傷害保険の特約として加入する場合がありますが、

—コラムの無断転写・転載などを禁じます。—

Copyright©2012 Skirr Japan Corporation. All Rights Reserved.

最近では葬儀費用に目的を特化した保険商品を扱う保険会社もあります。少額短期保険と呼ばれる事業者で、保険金額が少額で、保険期間も1年以内の保険の引き受けをすることができます。少額の保険料で手軽に加入することができ、審査・申し込みも比較的簡単です。今すぐの方が一にも備えることができる、少額短期死亡保険をご案内します。

保険会社・プラン	死亡保険金	加入年齢	保険料	特徴
NP少額短期保険 葬祭費用あんしんプラン (15歳～79歳まで加入可)	一口30万円 (最高3口まで)	50～59歳 60～69歳 70～79歳	年間6000円 年間7000円 年間12000円	現在入院治療中でなければ医師による審査・告知なしに誰でも加入できる。1年更新、保障は99歳まで更新可。保険金は翌営業日払い。
ベル少額短期保険 千の風 (80歳10カ月まで申し込み可)	50万円 (最高200万円まで)	50～69歳 70～72歳 73～74歳 75～76歳	1000円/月 1200円/月 1500円/月 1750円/月	1年更新、保障は99歳まで更新可。告知のみで加入できる。保険金は翌営業日払い。
メモリード・ライフ 保険金一定プラン (20歳から89歳まで加入可)	100万円 (最高300万円まで)	50歳 60歳 70歳 80歳	920円/月 1610円/月 3490円/月 8230円/月	1年更新、保障は99歳まで更新可。引受基準を緩和した告知。保険金の50%は翌々営業日払い。保険料は年齢1歳ごとに変わる。

このほかにも、医療一時金付定期保険や介護一時金付定期保険という、入院や介護の一時金とセットになった商品を扱う会社もあります。

また、少額短期保険ではありませんが、アメリカンホーム保険の「これからだ 長期補償傷害保険」は、50歳から加入できる葬祭費用とけがの治療費を補償する保険です。少額短期保険に比べると保険料は高くなりますが、けがの治療費の実費や入院一時金も付き、補償内容は手厚くなります。

医療の進歩で、平均寿命が長くなり、寿命が長くなったことで、生前の医療費や介護の費用が大きくかかる場合も多く、葬儀やお墓のお金まで確保するのが難しい時代になってきています。家族の人数も少なくなっている今、残された家族に迷惑がかからないよう、自分が死んだあとにかかるお金についても、きちんと準備しておく必要があります。